



未来のまちづくりに鋭い質問を行った12人の中学生議員たち

【市長答弁】

少子化の原因については、一般的に、女性の就労機会が多くなり、結婚して子育てするとう意識が低下したこと、また、経済的な理由で出産を控えるということもあります。

さらに、不安定な雇用状況が、結婚率に影響するといった、さまざまな要因が考えられます。

市としては、子どもを産みたい人が安心して子育てのできる環境作り、つまり、子育て支援が少子化対策にとって最も重要な課題であると考え、さまざまな子育て支援対策を実施しています。

その一つとして、アンケート調査の結果を踏まえ、土曜日の保育時間を2箇所の保育所ではありますが、午後7時までには延長しました。

また、10月に開所する谷和原第2保育所において、保護者の方が病気などで子どもを見られないときに預かる一時保育、親子で遊べる場所の提供、そして、子育ての相談を行う子育て支援室を開設し、新たな支援を行う予定です。

これら施設的环境整備のほか、経済的な支援として、現在、マル福の対象が小学3年生までのところを、10月からは小学6年生までに拡大します。

また、ワクチン接種への助成も行っています。

以上、子育て支援としてさまざまな対策を実施しておりますが、少子化対策として、やらなければならない施策は多岐にわたっています。

未婚化・晩婚化現象をくい止めることも大変重要なことです。私の選挙公約に掲げた「嫁に來ないか」事業も実施します。結婚してつくばみらい市に住んでいただくため、出会いの場づくりを実施する予定です。

今後も、市民の皆さんのご協力をいただきながら、安心して子どもを産み、そして育てやすい、やさしさと、やすらぎのあるまちづくりに取り組んでまいります。

【教育長答弁】

近年の少子化問題については、当市の小中学校においても問題になっていきます。児童数の減少により、ある学校では複式

学級の基準になってしまった学年もあります。その一方で、「みらい平地区」では、児童生徒数が増加しています。

市では、「つくばみらい市義務教育施設適正配置審議会」を設置し、茨城県が示す、小学校は12学級以上、中学校では9学級以上という学校の適正規模の基準のほか、学校施設の老朽化や耐震化、みらい平地区の土地利用計画など、さまざまな問題を協議検討しているところです。

なお、みらい平地区では、平成26年4月開校を目標に、小学校の新設を進めています。

今後、この新設小学校の中学校への就学区域によって、生徒数に影響が出てきますので、保護者の方や地域の方々の理解を得ながら、学校施設の実情などについても十分考慮した上で、学区を決定していきます。

伊奈東中学校の武道場について



だいち 藤森 大智
さいとう 藤森 齋

(伊奈東中 3年)

武道場が使えなくなったため、現在、市の総合運動公園をお借りしての活動で、剣道部と卓球部の練習が困難になっています。剣道部は曜日ごとに、男女バスケットボール部とバドミントン部と交代で体育館を使っています。卓球部は廊下、教室などの

【質問】

震災により、伊奈東中学校の